

古典を読む

年 組 名前

1、次の文章は、今から千年ほど前に書かれたものです。「枕草子」とよばれる随筆で、約三〇〇の章があります。書いたのは清少納言という女性です。

ここにあげたのは、その中の「たとしへなきもの」という文章です。「たとしへなきもの」というのは、「比べようがないほどちがっているもの」ということです。千年も前の作者はどのようなものが違っていると考えたのでしょうか。

まず、声に出して読んでみましょう。

たとしへなきもの

たとしへなきもの 夏と冬と。夜と昼と。雨降る日と照る日と。

人の笑ふと腹立つと。老いたると若きと。白きと黒きと。思ふ人

とにくむ人と。同じ人ながらも、心ざしあるをりとかはりたるを

りは、まことにこと人とぞおほゆる。

火と水と。肥えたる人、瘦せたる人。髪長き人と短き人と。

* 「心ざしあるをりとかはりたるをりは、…」の部分は、次のように読むとよいでしょう。

心ざしある折りと、変わりたる折りは、

(折り：時と言いかえられます。)

2、できるかな？ 現代の言葉で書いてみましょう。

年を取っているのと若いのと。好きな人。

同じ人でも、愛情を持っているときと、変わってしまったときとは、本当に別人のように感じられるものだ。

太っている人とやせている人。

古典を読む

年 組 名前

1、次の文章は、今から千年ほど前に書かれたものです。「枕草子」とよばれる随筆で、約三〇〇の章があります。書いたのは清少納言という女性です。

ここにあげたのは、その中の「たとしへなきもの」という文章です。「たとしへなきもの」というのは、「比べようがないほどちがっているもの」ということです。千年も前の作者はどのようなものが違っていると考えたのでしょうか。

まず、声に出して読んでみましょう。

たとしへなきもの

たとしへなきもの 夏と冬と。夜と昼と。雨降る日と照る日と。

人の笑ふと腹立つと。老いたると若きと。白きと黒きと。思ふ人

とにくむ人と。同じ人ながらも、心ざしあるをりとかはりたるを

りは、まことにこと人とぞおほゆる。

火と水と。肥えたる人、瘦せたる人。髪長き人と短き人と。

* 「心ざしあるをりとかはりたるをりは、…」の部分は、次のように読むとよいでしょう。

心ざしある折りと、変わりたる折りは、

(折り：時と言いかえられます。)

2、できるかな？ 現代の言葉で書いてみましょう。

比べようがないほどちがっているもの

比べようがないほどちがっているもの、夏と冬と。夜と昼と。雨がふる日と日が照っている日と。人が笑うのと腹を立てるのと。年をとっているのと若いのと。白いのと黒いのと。好きな人にくむ人と。同じ人でも、愛情を持っているときと、変わってしまったときとは、本当に別人のように感じられるものだ。火と水と。太っている人とやせている人。かみが長い人と短い人と。

年を取っているのと若いのと。好きな人。

同じ人でも、愛情を持っているときと、変わってしまったときとは、本当に別人のように感じられるものだ。

太っている人とやせている人。